



どんぐり

No.53

兵庫県立

南但馬自然学校

HYOGO KENRITU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO

(Nature Education Center)

これからの自然学校



兵庫県立南但馬自然学校

副校長 足立 宣孝

私の小学生の頃には、自宅の周りで鹿など見たことは無かった。唯一記憶に残っているのは、修学旅行で行った奈良公園の鹿くらいであった。

しかし、最近では、自宅近くで、夜、1週間に2、3度は数頭単位で鹿を見る。自然学校の入校式でもひょっこり鹿が顔をだすことがある。子ども達の視線は釘付けになり、大喜びである。

本校の朝来山には多くの鹿が暮らしていると思われる。その中には、人間を怖がらず、人前に出てくる鹿もいる。

鹿は、見た目には大変可愛い。

しかし、里に出てきて農作物を食

い荒らす(畑の野菜や田んぼの稲等何でも食べる)。そのため、私の住んでいる地元自治会では、集落の山側に、延べ2kmに及ぶ鹿網ネットを張り巡らすことになった。また、本校とふもとの集落との間にも鹿網ネットが張られている。では、なぜ、ここまで鹿は増えたのだろうか。山が荒れて、エサが無くなってきた。里には、美味しいものが沢山ある。鹿を襲う天敵がないため、どんどん繁殖している等々が考えられる。

このように、自然環境が変化して、動植物の生態にも大きな変化

をきたしている実態が身近にある。

これからの自然学校の実施にあたっては、変わりゆく自然環境を見つめ、①環境教育等の他の教育活動との連携を図り、また、②1年間を通した事前・事後の学習活動の実施も求められる。

昨年の自然学校評価検証委員会は、自然学校の充実を図るための方策として、6つ挙げている。先ほど上げた2つの他に、③学校で得難い体験活動プログラムの実施、④社会性や自立性を育むための集団活動の充実、⑤子どもの成長過程を踏まえた体験活動の充実、⑥家庭や地域との一層の連携を図る、である。

これらの提言を受けて、今年、実践の工夫を県下から集め、自然学校実践事例集が県教育委員会から発行される。6つの提言に沿った実践が紹介されている。自然学校の弾力的な実施について参考となる「まとまりのある自然学校」の取組も、本校での取組を元に掲

載されている。

今、100年に一度と言われる世界同時不況の中で、環境配慮型社会への転換も不況脱出の一つの視点として取り上げられている。環境に関する学習も、今後の大きな教育課題になってきた。

自然学校推進事業の今後を見据え、自然学校実践事例集を参考に、環境教育の要素を取り入れるなど、これまでとは一味違った自然学校が展開されていくことを期待したい。

表紙の写真

コバノミツバツツジ

4月に入ると、申し合わせたかのように、ピンクとも紫とも見える艶やかな花を一斉に咲かせます。

この長い名前は、輪を描くように生えた3枚の葉が、他のツツジより小さいことが由来となっています。

本校では、7年前に生活棟の裏山に生える照葉樹を整理する除伐作業を行ってからは、コバノミツバツツジが一段と引き立つようになり、柔らかな陽に透ける花を咲かせたその姿は、今ではすっかり里山の春を象徴する存在になっています。

よりよい自然学校 実施に向けて

「自然学校」は、豊かな感性の育成等多くの教育効果を上げてきています。本年度の指導を振り返りながら、よりよい自然学校の実施に向けて、いくつかポイントを絞って考えてみましょう。

1 自然学校実施のねらいは明確でしたか
自然学校の実施にあたって、「学校のねらい」等が明確だったでしょうか。全体の目標や個々の活動の目標が明確に示されず、単なる活動の体験だけに終わっていないでしょうか。

より一層の成果を上げるためには、学校・学級の課題や児童の実態等を考慮した目標設定を行うことが大切です。また、多くの目標を掲げすぎないことも重要です。

2 ゆとりあるプログラムでしたか

自然学校では、ゆとりをもったプログラムが大切です。児童が体験を振り返り、達成の喜びを体得できる時間的なゆとりが必要です。

また、活動の順序等にも配慮し、流れのあるスムーズな展開を心がけることも大切です。実施にあたっての目標を見据え、児童に過重な負担をかけることなく、教育的な意義を深めるプログラム設定が大切です。

一日に多くのプログラムを設定するのではなく、「二日一プログラム」をめざしたプログラム設定が理想的です。

3 児童が主体的に取り組む活動

自然学校では児童が各活動や集団生活の意義を理解し、進んで活動等に取り組むことができるよう配慮する必要があります。特に事前学習等で活動計画の策定や役割分担などに、児童が積極的に参画出来るよう工夫することが大切です。そのためには、実施可能な活動の情報を提供したり、児童が活動を選択できるように配慮する必要があります。そうすることにより、児童の参加意欲を高め、自主的な行動を引き出すことにつながります。

4 集団への所属感や連帯感を深める活動や自然のすばらしさを体感する活動を

自然学校では、児童が集団への所属感や連帯感を深められる活動を多く取り入れてください。活動を克服できた時の喜びや、困難に挑戦することの重要性を体得するとともに、自己有用感を高め、仲間と共に達成した体験の共有は、集団への所属感や連帯感を深め、望ましい人間関係を形作ることに役立ちます。

また、自然の中には人間の感性に働きかける刺激が満ちあふれており、児童の感性を豊かにする力があります。自然の多様性や不思議さを楽しみ、五感で感じる活動を取り入れてください。

5 安全・安心に配慮した有意義な活動を

自然の中で活動する自然学校では、重大な事故が発生する可能性があります。指導する教師は、安全・安心で楽しい活動ができるように特に留意する必要があります。事故が起これないような対策をきめ細かく講じるとともに、事故はいつでも何処でも起こりうるという認識を持って、事故が起これた時のことを考えた対策も大切です。

安全確保のための事前の実地踏査による確認と、情報収集、そして、これらの情報を指導者全員が共有し、更には参加児童や保護者にも適宜伝えることが重要です。ただ、過度な事故防止策によって、参加児童にとって、楽しさや挑戦しようとする気持ち、そこから得られる達成感が損なわれないように配慮する事も大切です。

6 かけがえのない活動です

自然学校も20年を経過し、マンネリ化に陥っていないでしょうか。自然学校を指導する教師にとっては度々の自然学校でも、参加する子ども達にとっては、一生で一度のかけがえのない活動です。生涯忘れることのできない小学校5年生でのすばらしい思い出となります。単なるイベントに終わるのではなく、教育課程の位置づけを明確にし、様々な教育活動と関連づけながら、自然学校の教育効果を発揮してほしいと思います。

7 全国の動きに注目

2月に熊本で行われた、「青少年体験活動全国フォーラム」で「兵庫県の自然学校」と題して、発表する機会がありました。平成23年度から本格実施される新学習指導要領に向け、全国各地で長期の集団宿泊活動の準備・検討を進める動きがあります。また、総務省・農林水産省・文部科学省連携事業として、「子ども農山漁村交流プロジェクト」が始まり、受入体制の整備や現地指導者の養成・確保が全国的に進められています。ちょうど20年前の「兵庫県の自然学校」がスタートしたときのように……



青少年体験活動全国フォーラム
(平成21年2月 熊本)

全国に先駆けて実施され、すばらしい教育効果を上げていた「兵庫県の自然学校」ですが、今後は、自然学校評価検証委員会からの6つの提言を受け、さらなる充実に向けた取組が求められます。
(文責 県立南但馬自然学校
主任指導主事 鈴木 文孝)

平成20年度 特色ある活動

平成20年度は、5月5日(月)から12月6日(土)までの間に、県下各地の65校(利用児童延べ人数25、288人)が本校で様々な活動を展開しました。

ここでは、本校で実施された自然学校の活動の中から、特色ある活動を紹介します。

1 相生市立若狭野小学校

(児童数/36名)
(実施期間/11月24日~29日)

「自然のなかで自分を見つめ、生きる力をつけよう」のテーマのもと、昼食のメニューを自分たちで考え、手作りの昼食(弁当)を持って、朝来山登山、隠れ家づくり、ヒメハナ公園へのサイクリングなどの活動を行いました。

自分の力で、自らの食事を作るという活動を入れることで、食について見直し、実施後の自分の食生活を考える機会となりました。



自分のお弁当は自分で

2 赤穂市立有年・原・高雄小学校連合

(児童数/46名)
(実施期間/11月17日~22日)

「二日一笑」出会いを力に、をテーマとして、自然や多くの人との出会いのなかで、本気で笑えるような体験をし、成長したいと入校してきました。地元の朝来市立与布土小学校との交流会を実施し、それぞれの学校の様子を発表し合ったり、一緒に掃除をするなど、交流を深めました。



私たちの学校を紹介します

多くの人との出会いから、自分自身を発見し、普段出会えない人や自然との交流が増えるよう意識しながらプログラムを作成していました。

地元の与布土小学校を含めて、4校の児童が、学校の枠を越えて、互いに声を掛け合っている姿が印象的でした。

3 芦屋市立宮川小学校

(児童数/110名)
(実施期間/5月19日~24日)

田植え及びサツマイモの苗植(自然学校2日目)(5月20日(火))
稲刈り及び芋掘り・焼き芋 10月1日(水)

地元迫間区と本校との連携により、春の「田植え体験」に続き、秋の「稲刈り体験」等を行うことにより、農業を理解するとともに、地域の方々との交流を図ることを目的としています。

この農業体験は、地元迫間区より休耕田の有効活用について依頼を受け、平成14年度から、活動プログラムとして「田植え」「稲刈り」体験を実施しています。今まで延べ16校が参加しています。

自然学校期間中だけでなく、実施後の活動も重要です。



にゅるにゅるの中での田植え

今年度も、様々な工夫を凝らしたプログラムが、展開されました。

(文責 鈴木孝孝)

里山クラブの活動「ふれあい餅つき会」

里山クラブ「どんぐり」と南但馬自然学校が協働で行う大きな行事に、毎年12月に行われる「ふれあい餅つき会」があります。地域の方々や近隣の小学生を招待して親睦を深める行事です。

今年度も、昨年の12月20日(土)に、地元の子どもからお年寄りまで約170人もの参加の中、盛大に餅つき会が行われました。餅つきが初めての小さな子ども達は、里山クラブのメンバーの手助けを受けて、力いっぱいお餅をつきました。

また、午後からは、朝来山の散策や、ひのきのキーホルダー、どんぐりのコマ、松ぼっくりのリースなどの自然物クラフトを行い、「ふれあい餅つき会」の参加者の方々と、楽しい一日を過ごすことができました。



里山クラブとは、朝来山の一角である本校の敷地をフィールドにして、自然学校を利用する児童・生徒や県民が親しめる里山づくりを目指し活動しているボランティアグループ



自然学校実施報告書から見えること ～ねらいに見る10年の変化～

1 「自然学校のねらい」としてあげられるもの

本校では、平成11年度から、自然学校を実施した学校が、「自然学校のねらい」としてどのような内容をあげているか、下記の項目で調査を実施している。

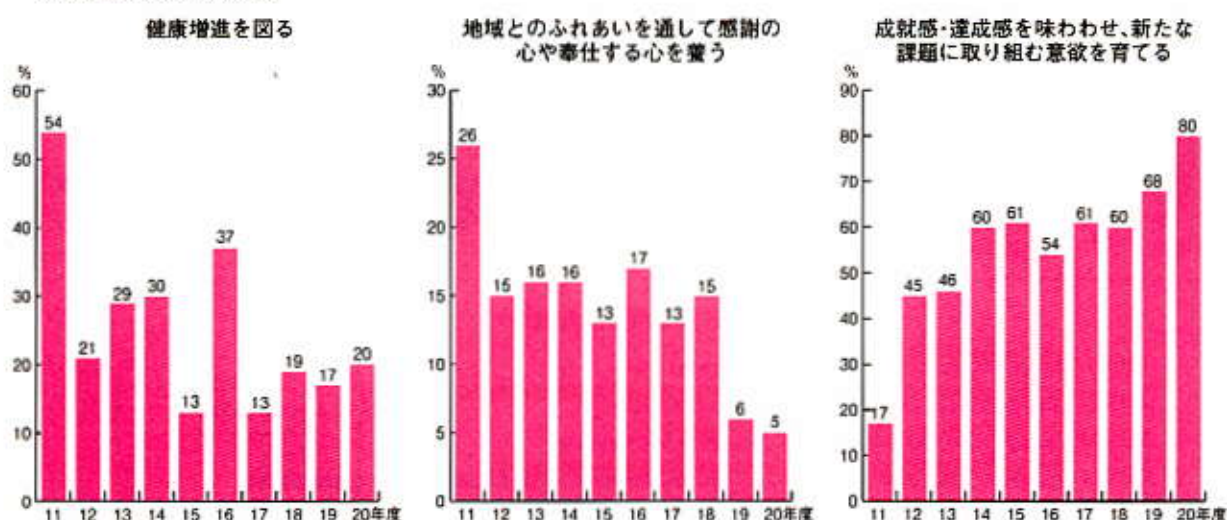
- | | |
|-----------------------------|---------------------------------|
| 1 自然に関する興味・関心を高める | 5 健康増進を図る |
| 2 自主性・主体性を培い、判断力を身につけさせる | 6 地域とのふれあいを通して感謝の心や奉仕する心を養う |
| 3 集団生活を通して協調性を高め、思いやりの心を育てる | 7 成就感・達成感を味わわせ、新たな課題に取り組む意欲を育てる |
| 4 ささまざまな活動を通して、豊かな感性を育む | 8 その他 (複数回答可) |

平成11年度から今年度までの10年間にわたる「自然学校のねらい」の変化を見ていきたい。

2 10年間の変化

10年間で大きく変化した項目は、

- 5 健康増進を図る
 - 6 地域とのふれあいを通して感謝の心や奉仕する心を養う
 - 7 成就感・達成感を味わわせ、新たな課題に取り組む意欲を育てる
- の3項目があげられる。



3 変化から読み取れること

実施報告書では、「5 健康増進を図る」の項目と「6 地域とのふれあいを通して感謝の心や奉仕する心を養う」の項目が減少している。この項目については、自然学校のねらいとしてあげなくても、学校で十分補完できる内容であるため、減少してきたと考えられる。また、「7 成就感・達成感を味わわせ、新たな課題に取り組む意欲を育てる」の項目が増加している。さらに、「3 集団生活を通して協調性を高め、思いやりの心を育てる」の項目については、毎年、9割前後の学校がねらいとしていたが、今年度は、全ての学校がねらいとしてあげていた。他の項目については、この10年間で、大きな変化は見られなかった。

変化が見られなかった項目は、「1 自然に関する興味・関心を高める」や「2 自主性・主体性を培い、判断力を身につけさせる」で、自然体験活動に取り組む際の基本的なねらい（不易の部分）であるという認識のため、大きな変化が見られなかったと考えられる。

つまり、各学校は、普段、学校ではできない体験（活動）を中心とする自然学校ならではのねらいをより重要であると捉えた結果が、実施報告書の変化になっていると考えられる。

4 自然学校の一層の充実を目指して

より効果的に自然学校を実施する場合に重要と考えられることを整理すると、以下の4点にまとめられる。

- ① ねらいの明確化・焦点化（さらに具体的なねらい）
 - ・児童にも理解できるねらいになっているか？
- ② 核となる活動の工夫（実施回数、ねらいとの関係）
 - ・ねらいに直結する活動は明確になっているか？
- ③ 活動相互の関連性
 - ・それぞれの活動につながりはあるか？
- ④ 全体・班・個人など活動単位の工夫
 - ・班での活動等（集団活動）は工夫されている？

平成20年度県立南但馬自然学校における傷病発生状況から

1 医務室処置及び受診状況

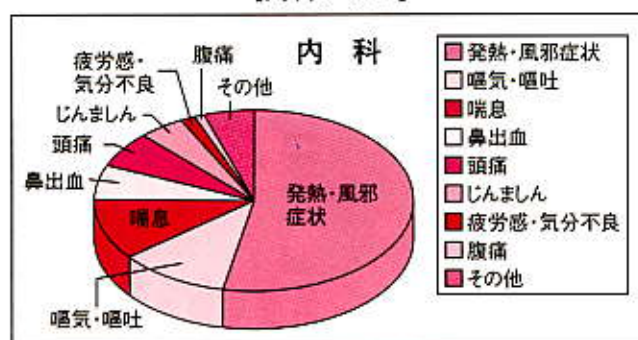
	医務室処置			受 診		
	内科的	外科的	合 計	内科的	外科的	合 計
H20年度発生件数(件)	81	89	170	39	37	76
H20年度発生率(%)	0.3	0.4	0.7	0.2	0.1	0.3
H19年度発生率(%)	0.3	0.4	0.6	0.1	0.1	0.3
15年間の平均発生率(%)	0.9	0.8	1.6	0.1	0.1	0.2

※ 発生率は処置件数を利用児童延べ人数25,288人で割り、算出した。
 ※ 受診件数は医務室件数に含まれている。
 ※ 小数第2位で四捨五入しているため合計と合致していない項目があります。

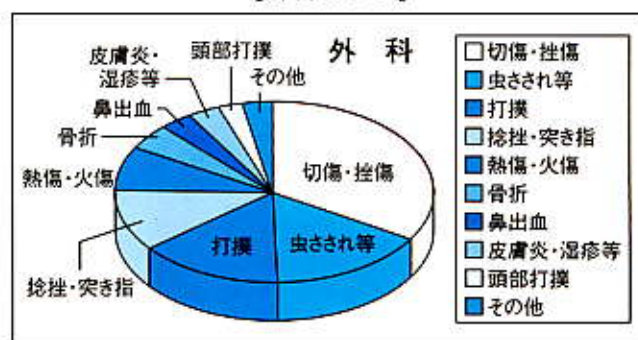
・本年度の医務室処置件数は内科、外科ともほぼ昨年並みで、過去の平均より少ない状況が数年続いている。下記の4に記述しているように、自然学校での健康管理について事前、活動中の指導や配慮が行き届いてきた結果と考えられる。

2 傷病内容

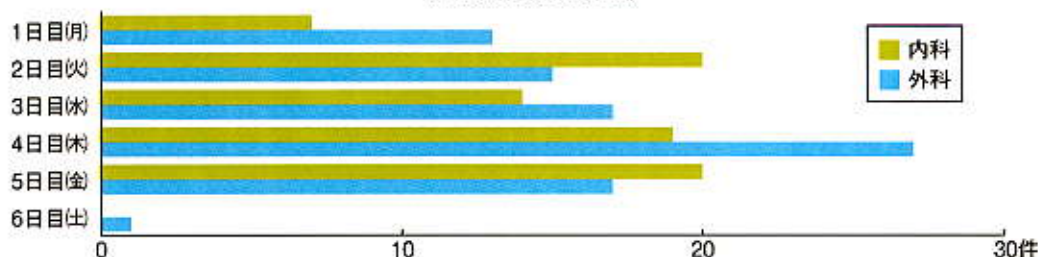
【内科グラフ】



【外科グラフ】



〈日別傷病発生件数〉



3 傷病記録より

傷病の発生件数及び受診件数を日別で見ると、内科は2日目(火)、5日目(金)が一番多く、次いで4日目(木)の順となる。2日目は入校前からの体調不良が悪化したことによる場合が多く、5日目は睡眠不足や慣れない野外での活動の疲れが原因と考えられるケースが多い。

外科は4日目(木)が一番多く、次いで3日目(水)、5日目(金)となっている。4日目ぐらいになると施設や自然学校にも慣れ、活動が活発になり、油断することも要因と思われる。また、けがの発生件数、けがによる受診とも自由時間が一番多い(約3割)。各活動に対する安全面での配慮とともに、自由時間の過ごし方の指導が大切である。

4 健康・安全管理と自然学校

自然学校のねらいを達成させ、充実した自然学校にするためには、児童の健康・安全管理も大きな鍵となってくる。

特に危険なプログラムについては、指導体制を十分確認するとともに、下見を充実させ、安全指導の具体的内容をチェックリスト等にまとめ、指導することが有効である。また、体調不良になる児童がほとんどいなかった学校では、静と動の活動の組み合わせや活動後の十分な自由時間(休憩)の確保など、児童の疲労を最小限に抑えるためのきめ細かな配慮等、児童の健康・安全面からプログラムの見直しを行っている。活動中も常に児童の健康状態の把握に努め、疲労度、天候等合わせたプログラム変更など臨機応変な対応が重要である。

(文責 県立南但馬自然学校 主任指導主事 増田千代子)

南但馬自然学校「調査・研究」委員会 から

本校では、平成13年度から「兵庫県立南但馬自然学校調査・研究委員会」を設置し、自然体験や集団生活等とおして、子どもたちの「生きる力」をはぐくむ自然学校の一層の充実を図るため、様々な調査・研究を進めている。

平成19・20年度は、リスクマネジメント部会と環境部会に分かれ、調査・研究を行ってきた。

1 リスクマネジメント部会の取組

県立南但馬自然学校利用校に帯同してくる指導補助員を対象に「指導補助員とリスクマネジメントに関する調査」を実施した。その結果、指導補助員が危ないと感じた活動の上位は、「自然物クラフト」、「登山」、「野外炊事」、「隠れ家づくり」であった。この4つの活動について、「ヒヤリハット体験」(リスクマネジメント分野では、事故が起きる以前に指導者が危険を感じた状況)を調査・研究した。

実施期間 平成20年5月～6月(延べ66人)

調査・研究の結果(研究紀要から一部抜粋)

野外炊事

図1は野外炊事時の「ヒヤリハット体験」の発生場面を示している。

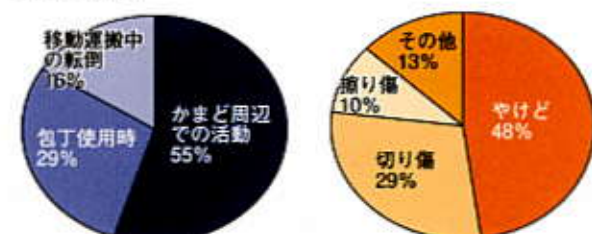


図1 「ヒヤリハット体験」発生場面

図2 予想される事故やけが

図2は野外炊事に「ヒヤリハット体験」をした際、その後に起こると考えられる事故やけがを予想した結果である。

表は「ヒヤリハット体験」に至った原因を示したものである。表に示すとおり、原因の多くが児童自身にあることがわかる。指導者がより適切な指導を行うことでこれらの原因をコントロールすることは可能であり、事故発生の防止につながると考えられる。また、一方で指導者側の原因として、指導不足・人員不足が25%と高い割合を示しており、指導者の適正配置や指導能力の向上が必要であることがわかる。

表 「ヒヤリハット体験」に至った原因

原因	割合	原因の所在
児童の不注意	21%	児童に原因
軍手の未装着	14%	児童に原因
火起こしの技術不足	10%	児童に原因
指導人員不足	10%	指導側に原因
地面が滑りやすい	7%	環境に原因
指導不足	7%	指導側に原因
刃物の使い方	7%	児童に原因
蜂への興味	3%	児童に原因
鍋の持ち方	3%	児童に原因
周辺環境	3%	環境に原因

南但馬自然学校では、これらの調査・研究の結果から事故を未然に防ぐための「チェックリスト」を作成し、今後の指導に役立てる予定である。

2 環境部会の取組

「自然学校における児童の環境に関する意識の変化についての調査」として、本校を利用している延べ6校にア

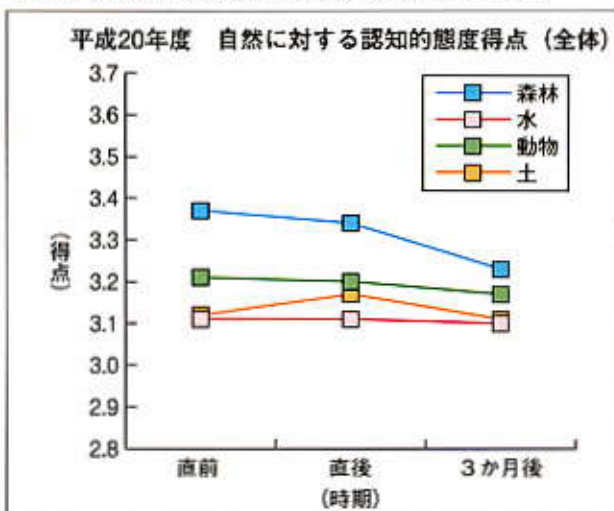
ンケートを依頼し、自然学校実施前、実施後、3か月後の3回、児童を対象に実施した。

それらの調査結果を基に自然学校のプログラムや事前及び事後の取組と環境に対する意識の変容について調査・研究した。

調査・研究の結果(研究紀要から一部抜粋)

自然に対する認知的態度について

今回の調査では、自然に対する認知的態度を森林、水、動物、土の4因子から分析し、自然学校プログラムの児童に与える影響を明らかにすることを目的とした。



自然学校で展開されるプログラムによって実施直後には、自然に対する態度が一部肯定的に変容することがわかった(土因子)。

自然学校終了3か月後、自然学校の実施直前の得点よりも態度得点は低下することがわかった。

以上から自然に対する態度については自然学校での変容を一部は確認できたが、そのプログラムへの児童の取組の程度や事前指導等における環境教育を意識した学校での取組が重要なポイントとなってくると考えられる。

今後、小学3年生で始まる環境体験事業から、継続した環境教育プログラムの展開に沿って、その効果を見ていく必要がある。特定の学年に限定せず、各学年で繰り返し自然環境に関わっていくことが重要だと考えられる。

平成21年度からは、小学校体験活動事業として「自然学校推進事業」と「環境体験事業」が補助金事業としては、一本化され、自然学校等の事業の重点化や実施期間等の弾力的な運用が可能となる。

このような中で、従来の自然学校と弾力化される自然学校のめざす方向性等についての調査・研究が必要であると考えられる。

平成21・22年度も、南但馬自然学校では、調査・研究委員会を設置し、「自然学校」が児童の「生きる力」の育成に果たす役割や、新たな自然学校の在り方について専門的な分析、研究を行い、その結果を広く関係者に情報提供していく予定である。

なお、調査・研究委員会のまとめは、「研究紀要」として、兵庫県立南但馬自然学校のホームページからダウンロードすることができます。

ぜひ一読ください。

(文責 鈴木文孝)

平成21年度 講座・研修会のご案内

自然学校出前講座

目的	本校の職員が要請に応じて県下各学校等を訪問し、自然学校や体験活動等の支援を行います。
実施時期	平成21年4月～平成22年3月
実施内容	◆自然学校に関すること ・自然学校の趣旨説明 ・事前相談 ・事前学習 ・保護者説明会 ・事後学習 ・事後相談 ◆プログラムデザインに関すること ◆体験学習法に関すること ◆自然とふれあう手立てに関すること ◆人とふれあう手立てに関すること
申込方法	「自然学校出前講座申請書」で申し込んでください。

自然体験活動1日講座

目的	様々な自然体験活動に係る技術や指導法について研修し、指導力の向上をめざします。
対象者	公立小・中・高等学校（神戸市立を除く）及び特別支援学校教員（初任者研修及び10年経験者研修の校外研修としても受講可）
募集定員	40名

回	期 日	内 容
第1回	平成21年 6月30日(火)	実習 「自然で遊ぶ」
第2回	平成21年10月 6日(火)	実習 「自然を楽しむ」
第3回	平成21年11月24日(火)	実習 「自然でつくる」

自然学校講座（指導補助員養成コース・指導者スキルアップコース）

目的	指導補助員養成コース：指導補助員等としての基礎的な知識・技術を学びます。 スキルアップコース：各自のニーズに応じた講座を選択し、指導力を高めます。
期 日	平成21年8月23日(日)～8月26日(水)
対象者	大学生、一般県民、公立学校教員（高等学校10年経験者研修として受講可） 県立南但馬自然学校登録指導補助員、自然学校救急員
募集定員	30名

プレ自然学校・アフター自然学校

目的	自然学校の事前・事後体験活動の充実を図る。
期 日	平成21年5月～平成22年3月上旬の間で、自然学校受入日以外の日
対象者	原則として県下公立小学校5年生
内 容	施設散策オリエンテーリング、朝来山登山、棒焼きパンづくり等
経 費	施設使用料、材料代等が必要です。
申込方法	「兵庫県立南但馬自然学校利用許可申請書（自然学校以外）」で申し込んでください。

親子で自然学校

～親子で南但馬自然学校を楽しもう～

- 第1回 平成21年12月26日(土)～27日(日)
第2回 平成22年 1月23日(土)～24日(日)
第3回 平成22年 2月20日(土)～21日(日)

場 所：兵庫県立南但馬自然学校
参加費：食事代、材料費等が必要です。
対象者：県内在住の小学生と保護者
内 容：自然散策、自然物クラフト、星空観察、
野外炊飯 等
申込み：事前に参加申込みが必要です。
(参加申込書は、各学校に配布します。)

遊友体験活動事業

(里山トレジャーハンター)

- 第1回 平成21年7月11日(土)
～水辺の生き物・昆虫編～
第2回 平成21年10月17日(土)
～山の恵み・秋の恵み編～

場 所：兵庫県立南但馬自然学校
参加費：無料
対象者：一般県民（子どもだけの参加はご遠慮
ください。）
内 容：第1回 夏の生き物さがし
第2回 きのかさがしと焼き芋 等
申込み：事前に参加申込みが必要です。